

～出雲養護学校におけるいじめ防止等の対策について～

平成25年9月28日に「いじめ防止対策推進法」が施行されたことを受け、平成26年4月30日には「島根県いじめ防止基本方針～しまねの子どもの絆づくりをめざして～」が策定されました。本校でも県の方針を受けて、いじめ防止等の対策に係る体制を整えています。

1 「出雲養護学校いじめ防止基本方針」の策定

本校では、児童生徒が安全で安心して、明るく元気に、楽しく豊かな学校生活を送ることができるように、学校・家庭・関係諸機関・地域との今まで以上の連携の下、いじめの防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針を、「出雲養護学校いじめ防止基本方針」として策定しています。

「いじめの防止（未然防止のための取り組み等）」に始まり、「早期発見（いじめのサインを見逃さない、早期発見するための措置等）」、「いじめ事案への対応（ネット上の対応も含めた組織的対応等）」までの一連の内容や年間活動計画等を記しており、年度ごとに見直しをしています。

2 いじめ防止・対策等のための組織を設置

(1) 「いじめ防止委員会」の設置・・・別紙1

本校の方針の下、「いじめ防止委員会」を設置しています。委員会は定期的を開催し、学校内外におけるいじめの未然防止、早期発見を行うために、日常の指導体制の中心とします。

(2) 「いじめ対策委員会」の設置・・・別紙2

いじめと認知した場合の解決に向けた取り組みは、「生徒指導委員会」を中心とした「いじめ対策委員会」を立ち上げて、組織的に取り組んでいきます。

3 いじめの未然防止のための取組と年間計画の作成・・・別紙3

児童生徒、教職員の人権感覚を高め、学校内外でのいじめを許さない環境作りや指導・支援を行います。いじめを主テーマとした指導内容等は、年度末のところで各学部・分教室ごとに集約していきます。

4 相談体制の整備

いじめに限らず、困ったことや迷っていること、悩んでいることがあれば、誰にでも相談できる雰囲気作りと相談することの大切さを児童生徒へ伝え、希望や状況に応じてスクールカウンセラーにも相談できることを周知していきます。

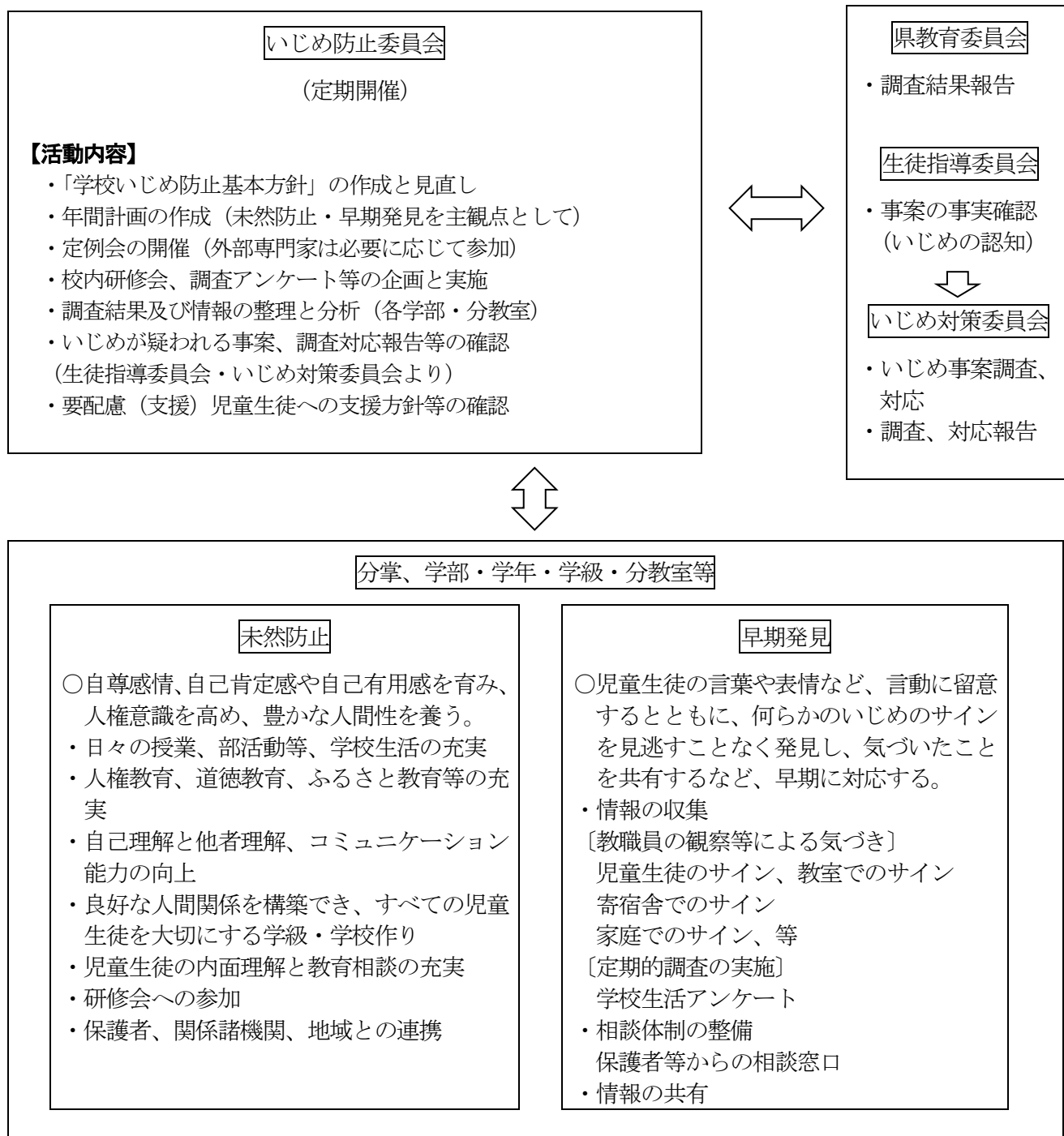
いじめ防止・対策等のための組織

1 日常の指導体制 「いじめ防止委員会」

日常の指導体制として、学校内外におけるいじめを未然に防止し、早期発見を行うために「いじめ防止委員会」を設置し、構成員及び活動内容を以下のものとする。

【構成員】

校長、教頭、主幹教諭、学部主事、肢体不自由部門長、分教室主任、寮務主任、生徒指導主事
人権教育主任、養護教諭、必要に応じて外部専門家（学校評議員、スクールカウンセラー 等）



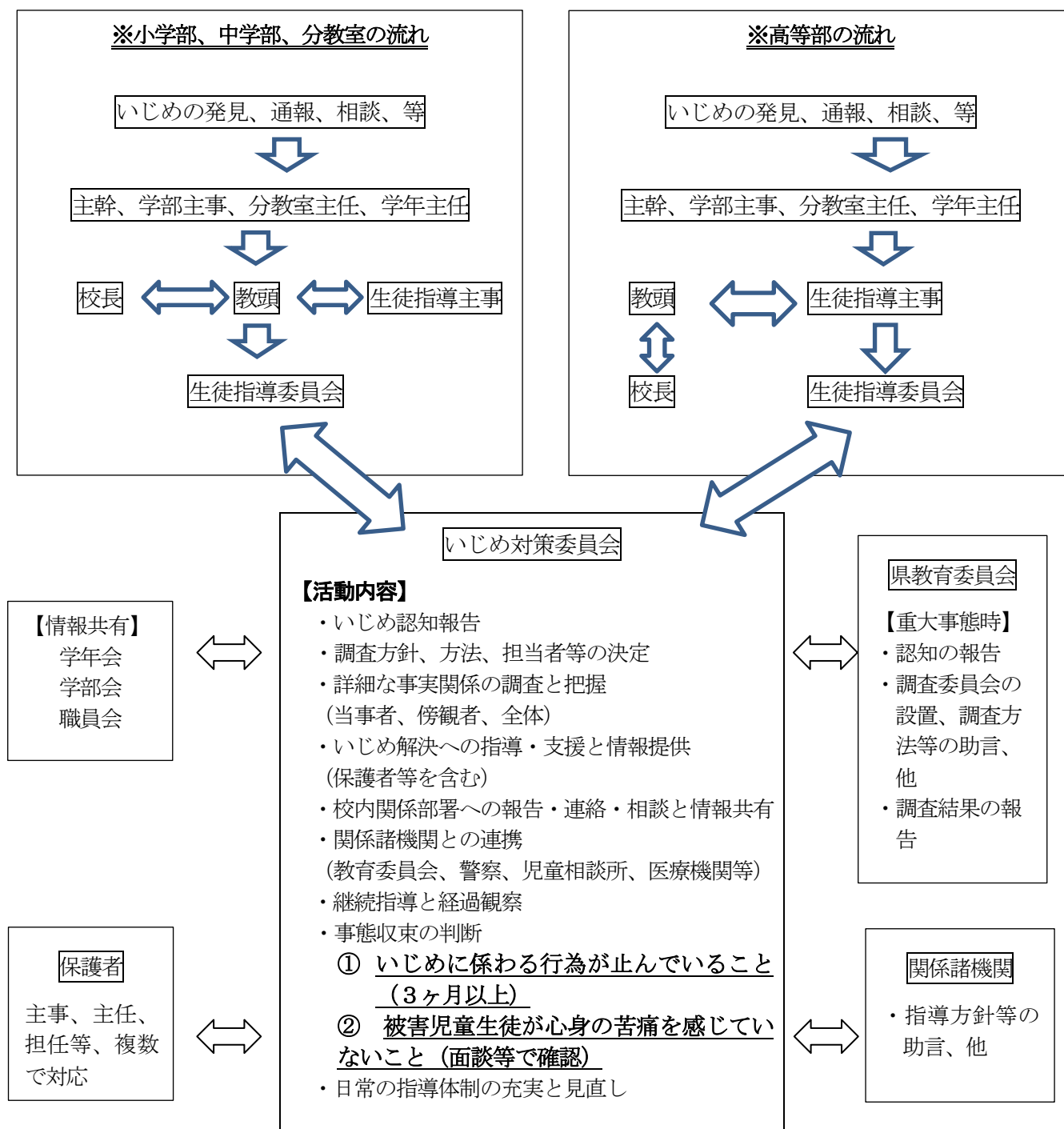
2 緊急時の組織的対応 「いじめ対策委員会」

いじめは生徒指導上の緊急時の事案と捉え、いじめと認知した場合の解決に向けた取り組みは「生徒指導委員会」を中心とした「**いじめ対策委員会**」を立ち上げて組織的に取り組んでいく。構成員及び活動内容を以下のものとする。

【構成員】

校長、教頭、主幹教諭、生徒指導主事、人権教育主任、及び当該児童生徒が所属する学部的主事・分教室主任・学年主任・担任、養護教諭、必要に応じて関係する教職員、必要に応じて外部専門家（スクールカウンセラー、学校医、警察、等）

なお、重大事態が発生した場合は、県教育委員会から派遣される外部専門家を加える。



いじめの未然防止のための取組

全教育活動を通して、自尊感情、自己肯定感や自己有用感を育み、人権意識を高め、豊かな人間性を養っていくことが重要である。そして、未然防止にすべての教職員が継続的に取り組み、「いじめは絶対に許されない行為である」という学校を作り上げなければならない。

1 日々の授業、部活動等、学校生活の充実

- ・好きなことや得意分野を活かした活動内容の選定と実力を発揮できる場、友達と共に活動する楽しさや成就・達成感を体験できる場面設定に努め、自尊感情や自己有用感等を育む。
- ・自分自身の良さや適性・成長（変容）・課題に気づくことのできる言葉かけ、考え方や行動等にポジティブなイメージを持つことのできる言葉かけを心がけ、欲求不満やストレスへの対処方法を見出していく。
- ・日常生活や社会生活に必要なマナーとルール、高等部にあっては生徒心得に基づく指導を継続する。また、児童生徒が中心となつてのいじめ防止をめざした日々の取り組みを推進していく。
- ・教育活動全体を通して、人権教育や道徳教育、ふるさと教育等の充実を図る。

2 自己理解と他者理解、コミュニケーション能力の向上

- ・相手や場に相応しい言動、さらには自分自身の思いや願いを話す、友達の思いや願い、発言に至った理由を聞く場面等、自分自身を振り返る（考える）・児童生徒同士で話し合う時間や相手を知る・思いやる場の確保に配慮し、自己理解、他者理解の力を育み、コミュニケーション能力の向上へとつなげていく。

3 児童生徒の内面理解と教育相談の実施

- ・障がい特性を理解し、児童生徒の言葉や表情などから、思いや願い・物事の捉え方や考え方の内面理解に努め、状況に応じてスクールカウンセラー等との連携を取っていく。
- ・良好な人間関係を構築し、すべての児童生徒の存在をありのままに大切にす学級・学校作りに向けて生徒指導を推進していく。

4 研修会の企画と実施

- ・児童生徒・教職員・保護者等を対象とした「いじめ問題」に関する校内研修会を人権・同和教育推進委員会とも連携して企画・実施し、理解といじめ防止の実践方法を学び人権意識を高めていく。
- ・すべての教職員の共通理解を図るために、いじめの問題に関する校内研修を実施する。

5 **保護者、関係諸機関、地域との連携**

- ・ P T A 活動・地域懇談会等での学校いじめ防止基本方針の周知、ホームページの活用などを通して、いじめの防止に向けた理解と協力を得る。
- ・ 周辺地域の学校との連携を図り、いじめ防止に向けて理解と協力を得る。
- ・ 所轄警察署と連携し、警察職員や少年警察ボランティア等によるいじめの防止を主眼とした非行防止に向けた取り組みをする。

6 **特に配慮が必要な児童生徒への対応**

- ・ 特に配慮が必要な児童生徒については、日常的に児童生徒の様子を学校全体で把握し、その特性や状況を踏まえた適切な支援や指導を行う。また、保護者や家庭との連携、周囲の児童生徒に対する必要な指導を組織的に実施したり、異校種間の連携を進めたりして児童生徒について情報共有を行う。
- ・ 発達障がいを含む、障がいのある児童生徒
- ・ 海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒、及び国際結婚の保護者を持つなどの外国につながる児童生徒
- ・ 性同一障がいや性的傾向、性自認に係わる児童生徒
- ・ 東日本大震災等により被災した児童生徒、又は原子力発電所事故により避難している児童生徒
- ・ 新型コロナウイルス感染者、濃厚接触者とその家族、新型コロナウイルス感染症の対策や治療にあたる医療従事者や社会機能の維持にあたる方とその家族等